

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602470
法人名	有限会社 Kふあみりい
事業所名	グループホーム みどりのうた
所在地	福岡県久留米市東櫛原町1647番地6
自己評価作成日	令和1年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和1年11月18日	評価結果確定日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた豊かな環境の中で、入居者様一人一人が家庭的な生活を送れるような支援を心掛けています。隣接する小規模多機能型ホームとの連携により多様なニーズに応える体制を整えており、看取りに対しても真摯な姿勢で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

久留米市の総合スポーツセンターや鳥類センターに隣接する住宅地の中に位置し、開設して15年目を迎える歴史を持つ事業所である。広い敷地内には小規模多機能型居宅介護事業所も併設され、困難事例への対応や地域交流、災害対策等に連携を発揮している。今年度の水害時には周辺地域に床上浸水の被害があり、駐車場やトイレ、車椅子等の地域のニーズに対応し、あらためて災害対策や地域密着型サービスとしての役割に向き合う契機となった。また、運営推進会議を活用し、弁護士による「高齢者虐待防止」や「人権」、「権利擁護」に関する研修を行う等、情報発信も行われており、今後も地域拠点としての存在の高まりが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングにおいて理念を唱和し、職員間での理念の共有を徹底している。	法人設立時に運営者を中心として作成された理念を掲示し、日々の唱和を通じて一日が始まる。併設される小規模多機能型居宅介護事業所との連携も図りながら、地域密着型サービスとしての役割を担うべく事業運営に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区子供会の行事にホームを開放することで、地域の一員としての役割を担っている。	子ども会の会合の場を提供したり、菊の懇親会に代表者や職員が参加する等、日常の中での交流機会がある。今年度の水害時には周辺地域に床上浸水の被害があり、駐車場やトイレ、車椅子等の使用について地域のニーズがあったことを踏まえ、避難場所としての活用やゴムボートの購入等、速やかな対応が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて、認知症に対する正確な情報の告知に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地区代表者以外にもご家族が多数出席され、積極的な意見交換を行っている。	運営推進会議は、複数の家族や自治会長、民生委員、子ども会会長、地域包括支援センター、市福祉担当者、地域消防団等の出席を得て、2か月に1回開催されている。状況報告や地域情報の共有が図られ、様々な立場の委員の方々より意見や情報を頂き、開かれた事業運営とサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から市担当者との情報交換を密に行い、緊密な協力関係を構築している。	運営推進会議や事業者協議会での活動、圏域の事業者による「中央ごさつ隊」の活動では民生委員の方との連携も図りながら、協力関係づくりに取り組んでいる。また、不明な点の問い合わせや困難事例への対応について、窓口を訪ねたり電話連絡を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」の指針に則り、日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する指針の作成や研修実施等を通じて、適正化に向けた意識の統一を図っている。入居時より家族との共有認識を図り、定期的な委員会の開催と運営推進会議の中での報告等を通じて、現状の振り返りと確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間の連携により、虐待等が見過ごされないような意識の徹底を目指している。地元での専門家(弁護士)を招いて、虐待に関する勉強会を開いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の専門家(司法書士)との連携により、成年後見制度を活用している。	外部講師(弁護士)を招き、運営推進会議の中で、高齢者虐待防止や人権、権利擁護制度について研修を行っている。現在、制度を活用している方もおり、地域の司法書士の方との密な連携が図られる中、生活面や余暇活動等も含めたサポートが行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結等の際には、書面を提示しつつ、時間をかけて丁寧な説明を行い、ご家族等の不安解消に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の来所時の機会を捉えて、積極的に会話をし、要望を迅速に運営に反映させている。	運営推進会議の開催を、家族に幅広く案内しており、実際に複数の家族の参加を得ている。意見や要望があった場合には、職員への周知を図るとともに迅速な対応に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議等の場だけでなく、随時運営に対する意見を聞く機会を設けている。	毎朝の申し送りや全体会議、随時のカンファレンス・ミーティング等を通じて、情報共有と意見や要望の収集に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行動評価シートを用いた客観的な給与体系の整備、処遇改善加算を活用した給与水準の引き上げを行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたって、性別等による差別は行っていない。本人の仕事に対する意欲を重視している。	職員の採用にあたり、性別や年齢、国籍等を理由に採用対象から排除することはない。実際に幅広い年齢層の職員が勤務している。新たに設備された職員休憩室にマッサージ椅子を導入する等、職場環境づくりへの配慮も確認できる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権、特に入居者様の自己決定権を尊重するための人権教育に取り組んでいる。	運営推進会議の中で、弁護士の方を講師として招き、人権や高齢者虐待防止、権利擁護制度に関する研修を実施している。また、職員が外部研修に参加し、内部での伝達を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験・技量に応じた研修への参加を支援している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一エリアの同業者と交流・意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の十分なヒアリングを行うことにより、本人の要望をくみ取り、信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の十分なヒアリングを行うことにより、家族の要望をくみ取り、信頼関係の構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設する小規模を含めて、本人に本当に必要なサービス情報の提供に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である入居者様と正面から向き合っただけ支援を行うことにより、共に生活する者としての信頼関係の構築に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の大切な時間を尊重し、家族が支えることが困難な部分を職員が共に支えるよう心掛けている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人たちとの交流を積極的に支援している。	家族や知人の来訪する機会も多く、ともに歓迎し、居心地良く過ごせるよう配慮されている。また、書信のやり取りや通院の帰りに馴染みの場所を通る等、関係継続に向けた支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームという社会の中で、利用者同士の関係性を職員一人ひとりが十分に把握し、できるだけ通常の社会と変わらない人間関係を構築できるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した利用者の家族等に対しても、行事等の案内を行い、参加して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との対話、観察を通じて、常に本人本位の支援に努めている。	入居時より、家族や関係者も含めて情報収集を行っている。日常の中でも、言葉や仕草、行動等から推し測り、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式等を活用して、一人ひとりのこれまでの生活歴等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なバイタルチェックや介護記録をもとに、一人ひとりの状態の変化の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療関係者と十分に話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	本人の役割や関係性も盛り込みながら、計画作成担当者を中心として介護計画を作成している。定期的なモニタリングやカンファレンス等を通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの個別記録を整備し、職員間の情報共有に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設する小規模多機能型ホームを有効活用することにより、多様なニーズに柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物に参加したりして、本人が豊かな生活を楽しめるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人及び家族の希望をもとにかかりつけ医を決定し、受診支援を行っている。重度化等に応じて適切な医療が受けられるよう家族と相談の上往診対応できる医療機関への変更も支援している。	入居時に、かかりつけ医に関する希望を確認している。また、重度化した場合も踏まえ、夜間の対応が可能な協力医療機関との連携を密にし、受診や往診体制を整備している。看護職員が2名配置されており、日々の健康管理や医師との連絡、調整に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、個々の利用者の小さな変調を捉えた場合にも看護職に報告し、適切な医療的支援を受けられるよう努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を密接に行い、早期退院の受け入れ体制の構築に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえた話し合いを行い、主治医、訪問看護との連携を取りながら、看取り支援に積極的に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時より指針をもとに事業所としての方針を説明し、意向を確認している。夜間も対応可能な協力医療機関との密な連携を図り、状況の変化に対応しながら、家族や関係者との方針共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えた対応マニュアル等を職員に配布し、また、看護師の指導の下、緊急時の対応を日々研鑽している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民にも呼び掛けて、年2回火災訓練を実施している。	消防署の指導のもと、併設施設との合同避難訓練を実施している。今年度は周辺地域で床上浸水の被害があり、駐車場やトイレ、車椅子等の地域ニーズに対応しており、水害後にはゴムボートを購入されている。また、消防署の訓練の場として、広い敷地内駐車場の活用も打診しており、地域との連携拡大に向けた働きかけが行われている。	今年度の対応経験を活かし、地域の中での役割を担おうと対策を検討されている。運営推進会議等も活用しながら、地域の中での更なる存在の高まりが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを損なうような安易な声掛けをしないよう職員同士が確認し合うよう努めている。	職員は外部研修に参加し、高齢者虐待防止やストレスマネジメント、基本的人権の尊重等について学んでいる。個人の対応について、気づいた点はお互いに注意しあえる関係づくりに努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて、本人が自己決定できるよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重しながら、毎日の支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に本人に好みの服装を選んで頂いたり、要望に応じた整髪をお手伝いしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じ食事をとることにより、食に対する共通の話題を楽しんでいる。	地元の米を使用し、野菜は地域の八百屋さんから仕入れている。調理師の資格を持つ職員もあり、嗜好や栄養バランス、形状等に配慮しながら食事を提供している。家族や後見人の方と外食に出かける機会もあり、最近始めた畑づくりには利用者も参加している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、食事を食べやすい形状に変更したり、水分摂取が難しい場合にはゼリー状にしたりして、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシが使用できない場合、口腔ケア用スポンジを使用する等、本人の状態に応じた口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、また、何気ない本人のサインを見逃さずに、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を作成し、個別の状況やパターンの把握に努めている。日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間は個別の状況に応じた対応を検討している。食材の工夫や乳製品の摂取等、便秘予防にも配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に繊維質の多い地元の野菜を取り入れている。ヨーグルトの摂取等個々人に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調等を考慮して、出来るだけ本人の希望に沿った入浴支援を目指している。	日曜日以外は毎日入浴を準備し、週に2、3回の入浴を基本として支援を行っている。希望や体調、状況等に応じて、シャワー浴も含む対応を行い、清潔保持に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに応じて、昼寝やうたた寝も必要な時間として支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の指導を受けながら、一人ひとりの服薬管理を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ネット動画等を活用して、好きな時に好きな映像(歌番組、スポーツ中継、時代劇等)を楽しんで頂いている。家庭菜園を設け、自然の中でリフレッシュして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状態に応じて、外出支援等を行っている。	通院の帰り道に馴染みの場所を訪ねたり、家族との外出を支援している。新たに畑づくりに取り組み、利用者も参加している。	外出の機会は少なく、広い敷地内を活用した外気浴や畑づくり、花を育てる等の取り組みを通じて、五感刺激や気分転換の場面を確保していくことも期待されます。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、原則として、家族及びホームが行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が家族の電話を取り次いだり、家族からの手紙のサポートしたりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間における過剰な装飾は避け、窓から見える季節感のある自然の風景を楽しむような空間利用を行っている。	リビングからは隣接する公共施設の緑の木々を見ることが出来る。動線や居場所の確保にも配慮しながら、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時には併設の小規模多機能型ホームを活用して、一人ひとりがプライベートな時間を楽しめるような配慮を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向を合わせて、本人が使い慣れた家具や調度品を持ち込んで頂き、住み慣れた環境の継続を支援している。	生活習慣の継続等に配慮しながら、畳敷き等の居室環境づくりを工夫している。馴染みの物の持ち込みやベッドの配置等、居心地の良さや安全面への配慮にも努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに目印となるものをつけたり、暖簾を下げたりして、本人の自立した行動の確保を支援している。		